算数科学習指導案

１　日　時　　令和８年 10 月 16 日（金）　５校時

２　学　年　　第１学年　計 17 名

３　単元名　　たしざん　～１０をつくろう～

４　単元について

（１）単元観

学習指導要領との関連は次のようになっている。

Ａ　数と計算

（２）加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）　加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場面について知ること。

（イ）　加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。

（ウ）　１位数と１位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

（エ）　簡単な場合について、２位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）　数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

第１学年では、加法及び減法の意味を考えたり、加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにするとともに、１位数の加法及びその逆の減法の計算ができるようにすることをねらいとしている。また、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたりするとともに、それを日常生活に生かそうとする態度を養うことをねらいとしている。さらに、簡単な場合についての２位数などの加法及び減法ができることを知り、数についての理解を深めることができるようにする。

（２）児童観

レディネステストを行った結果は以下のとおりである。（１７人実施）

★：本単元の学習を関連付ける着眼点につながる重要な学習内容

	問題	達成結果	誤答の内容
１	和が１０以内の加法の計算問題１０問中、８問以上正解した児童	１７人 （100%）	・８＋２＝９（１人） ・８＋２＝８（１人）

			・３＋４＝７（１人） ・７＋２＝８（１人） ・７＋２＝５（１人） ・無回答（１人）
２	４＋５のしきになるおはなしに○をつけましょう。 ア　つばめが４わいます。５わとんできました。 イ　つばめがいます。５わとんできました。 ウ　つばめが４わいます。５わとんできました。みんなでなんわになりますか。	１１人（65%）	・ア「つばめが４わいます。５わとんできました。」を選んだ児童（４人） ・イ「つばめがいます。５わとんできました。」を選んだ児童（１人） ・無回答（１人）
３ ★	１０を合成する問題 あめが６こあります。１０こにするには、あとなんこいりますか。	１７人(100%)	
４	１０を分解する問題５問中、全て正解した児童	１６人(９４%)	・１０は４と１（１人） ・１０は７と２（１人）
５ ★	「１０のまとまりと端数がいくつ」という数の見方を活用して、２０までの数の数え方や読み方を考える問題４問中、全て正解した児童	１５人(８８%)	・１７を７と回答しだ児童（１人） ・１２を１０と回答した児童（１人）
６ ★	１３について、「１０のまとまりといくつ」という構成になっていることをとらえ、ブロックと１０のまとまりの皿を用いて表すことができる。	８人(２７%)	・並べ方はあっているが、１０の皿を用いていなかった児童（４人） ・十の位の置き場所に、バラの３も置いた児童（３人） ・３だけ並べた児童（１人） ・取り組めなかった児童（１人）

７ ★	２０について、「１０のまとまりとが２つ」という構成になっていることをとらえ、ブロックと１０のまとまりの皿を用いて表すことができる。	９人（５３％）	・１の位に１０のまとまりを置いた児童（６人） ・並べ方はあっているが、１０の皿を用いていなかった児童（１人） ・取り組めなかった児童（１人）

以上の結果から、「達成している学習内容」は、和が１０以内の加法の計算問題と１０を合成・分解する問題であると考える。また、「つまずいている学習内容」をみると、式に合うお話を選べていない児童が３５％いることから、児童は、加法の意味理解に課題があることが分かった。また、２０までの数を数えたり読んだりすることはできるが、ブロックを用いて表すことにも課題があることが分かった。

これらから全体的にみると、「思考・判断・表現」に課題があると考える。

（３）指導観

○子どもたちを学習ステージに立たせるために、授業場面の前段を（１）教師がリードする段階（前時の復習・問題提示・〈めあて設定〉）と（２）子どもに委ねる段階（めあての設定・自力解決）に整理して授業を展開する。

①単元観や児童観のレディネステストの結果を踏まえた指導の工夫

本単元では、初めて繰り上がりのある加法計算を扱う。「１０といくつ」という数の見方や計算の意味に着目し、１位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方について考える力、及び考えようとする態度を育てていく。

しかし、レディネステストの結果を踏まえ、加法の意味理解を基礎にして新しい計算原理をつくるという論理的な思考が難しい児童がいると考えられる。また、ブロックを用いて数の構成を表現することにも、課題があると考える。

これらから、指導にあたっては、問題の意味理解の支援のために、具体物を掲示したり、算数ブロックや図を活用したりして、問題の把握に努める。また、加法の意味理解の支援のために、「１０のまとまり」をつくり、「１０といくつ」の考え方を定着できるよう操作活動を繰り返し取り入れていく。「１０のまとまり」をつくるよさについても共有させたい。また、計算方法を単元が進むごとに抽象化（算数ブロックの操作→図→らくらんぼ計算→念頭操作）していくように、意識して学習を進めていく。

②単元を貫く数学的な見方・考え方（学習を関連付ける着眼点）を生かした指導の工夫

本単元において、児童に「１０といくつ」という数の見方・考え方を身に付けさせ、１位数どうしの繰り上がりのある加法計算を解決していく力を育てることを重視する。そのた

めに、以下の指導の工夫をしていきたい。①導入部分では具体物を用いた場面を提示し、興味関心をひくようにするとともに、算数ブロックの操作活動を通して「１０のまとまり」に着目させる。②ブロック操作をしながら、「１０といくつ」という数の見方に着目し、図などを用いて「１０といくつ」になるように分けてたす計算の仕方を児童の言葉で説明させる。単元全体を通して「１０のまとまり」に着目し、「１０といくつ」になるように分けてたすことを繰り返し操作することにより、主体的に計算することができる力がつく授業を展開したい。

５　単元の目標・評価規準

（１）単元の目標

○１位数どうしの繰り上がりのある加法計算が、「１０といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできる。（知識及び技能）

○１０のまとまりに着目し、１位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。（思考力・判断力・表現力等）

○１位数どうしの加法計算の仕方について、「１０といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。（学びに向かう力、人間性）

（２）評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①既習の加法計算や「１０といくつ」という数の見方を基にした９＋４などの計算の仕方を理解し、その計算ができる。 ②加数分解による計算が確実にできる。 ③１位数どうしの繰り上がりがある加法計算は、１０のまとまりをつくればよいことを理解し、その計算ができる。 ④１位数どうしの繰り上がりがある加法計算が確実にできる。 ⑤基本的な問題を解決する	①９＋４などの計算の仕方を、数の見方（１０といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。 ②被加数が９～６の場合でも、１０のまとまりをつくって計算すればよいことを考え、説明している。 ③被加数、加数の大きさに関係なく、１０のまとまりをつくることに着目して計算の仕方を考え、操作や図などによって説明している。 ④計算カードの並び方について、縦に見ると被加数が１	①既習の加法計算の学習や数の見方を基に、１位数どうしの加法計算の仕方を考えようとしている。 ②単元の学習で考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じている。

ことができる。	増えると加数は１減る、という関数的な見方に気づき、数の関係を説明している。 ⑤単元の学習を活用して問題の解決の仕方を考え、説明している。	

６　指導と評価の計画（全１１時間　本時２／１１）

時	本時のねらい	学習を関連付ける着眼点	評価規準（評価方法）		
			知・技	思・判・表	主態
１	・ｐ６０を見て、「あわせてなんこ」を求める場面であることを考え、立式し、既習の加法計算を振り返る（問題提示→ブロック操作（声に出しながら）→自力解決→全体交流）。 ・１０までの合成・分解を振り返る。	①１０のまとまりを意識する			
２（本時）・３	・１位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法（加数分解）を理解する。	①１０のまとまりを意識する ②１０といくつになるように分けてたす	・知①（ノート）（第３時）	・思①（行動観察・プリント）（本時）	・態①（行動観察）（第３時）
４・５	・前時までの学習を踏まえ、１位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の		・知②（ノート）	・思②（行動観察・プリント・ノート）	

	理解を確実にする。	①１０のまとまりを意識する ②１０といくつになるように分けてたす			
６・７	・１位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法（被加数分解）があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。		・知③（ノート）	・思③（行動観察・プリント・ノート）	
８・９・１０	・加法の計算能力を伸ばす。		・知④（ノート）	・思④（行動観察・プリント・ノート）	
１１	・学習内容の定着を確認するとともに、単元で学習したことのよさを感じ価値づける。		・知⑤（ノート）	・思⑤（行動観察・プリント・ノート）	・態②（行動観察）

７　本時の展開

（１）本時の目標

○９＋４などの計算の仕方を、既習の加法計算や数の見方（１０といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え、説明することができる。（思考力・判断力・表現力等）

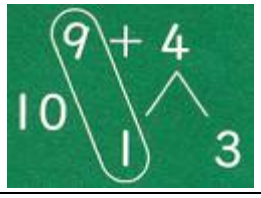
（２）準備物

算数ブロック（黒板用・児童用）、学習プリント、問題文（黒板用）、まなボード

（３）学習展開

学習活動 （リードする場面・委ねる場面） ○主な発問	・予想される児童の反応	○指導上の留意点●評価 □ 学習を関連付ける着眼点
１　既習の確認 ○１２＋５は、どのようにして、答えを出しましたか。	・１２を１０と２にわける。２＋５＝７。１０のまとまりとバラの７を合わせると、１０＋７で１７。	【学習を関連付ける着眼点】 １２＋５や４＋６＋２の計算は、「１０といくつ（バラ）」という数の見方を使って計算したことを確認する。
○４＋６＋２は、どのようにして、答えを出しましたか。	・４＋６で１０のまとまりができる。１０とバラの２を合わせると、１０＋２＝１２。	
２　問題提示 ことみさんは　どんぐりを　９こ、 けいとさんは　４こ　ひろいました。 あわせて　なんこ　ひろいましたか。		○単元導入時に、今後の生活科「あきとなかよし」の学習で今高野山に秋見つけに行き、どんぐり拾いをすることを事前に伝えておき、興味を持たせると共に、題意を把握しやすくする。
○わかっていること、聞かれていることに印をしましょう。		
○わかっていることを教えてください。	・わかっていることは、ことみさんがどんぐりを９こ、けいとさんが４こひろったことです。	
○聞かれていることを教えてください。	・聞かれていることは、「あわせてなんこひろいましたか」です。	

３　見通し		
○式はどうなりますか。	・式は９＋４です。 ・「あわせて」だから、たし算を使います。	○合併の問題場面から、加法が用いられる場面であることを確認する。
○これまでたし算の計算は、何を使って考えましたか。	・ブロックを使いました。 ・丸図を使いました。 ・さくらんぼ図を使いました。	
○この３つを使うときに、何をつくると分かりやすくなりましたか。	・１０のまとまりをつくると、パッと見て分かりやすかったです。	【学習を関連付ける着眼点】 ブロックのケースや、“ピカ１０とバラ”の掲示を使って１０のまとまりとバラを意識させる。１０のお皿を使ったことも、確認する。
４　めあての設定		
○どうしたら、数えずに、簡単に答えがわかりそうですか？	・１０のお皿をつかう。 ・１０といくつ（バラ）に分ける。	【学習を関連付ける着眼点】 １０＋６や１２＋５の計算は「１０といくつ（バラ）」という数の見方を使ったら簡単に計算できたことから、めあてを設定する。
９＋４の　けいさんのしかたを　かんがえよう。		
５　自力解決		
○ブロック、丸図、さくらんぼ図の中で、自分が考えやすいものを選びましょう。考え終わったら、他のものも取りに来て、使ってみましょう。 ・早くできた児童は、拡大した紙等に、図を記入する。	・９はあと１で１０。４を１と３にわける。９に１をたすと１０。１０と３で１３。 ・１０の皿を満タンにするようにわけたら良い。	レベル１ ブロック、丸図、さくらんぼ図の中から、自分が用いたいものを選んでいる。 ○ブロック、丸図、さくらんぼ図の３つのお助けプリントを用意し、自力で計算の仕方を考えられるよう支援する。
６　全体交流		
○９＋４の計算の仕方が、考		○児童の考えを板書したり、

えられましたか。（まずは、ブロック、丸図、さくらんぼ図の、それぞれを使った考え方を発表させる。その後、（ア）数えたし・（イ）加数分解・（ウ）３つの数の計算・（エ）被加数分解の考え方等、多様な考えが出たら、それぞれの違いを発表させる。）	（ア）数えました。 （イ）９はあと１で１０。４を１と３にわける。９に１をたすと１０。１０と３で１３。だから、答えは１３こです。 （ウ）３つの数の計算にしました。９＋１＋３にして、９＋１＝１０。つぎに１０＋３＝１３だから、答えは１３こです。 （エ）９を３と６にわける。６に４をたすと１０。３と１０で１３。だから、答えは１３です。	確認した事項を付け足したりしていく。 【学習を関連付ける着眼点】 ブロックを操作しながら説明することを通して、加数を分解して１０のまとまりをつくっていることに気づけるようにする。
○たくさんの考え方が出てきました。答えはどれも同じですね。他にも、同じことはありませんか。（最終的には、ブロック、丸図、さくらんぼ図、（イ）～（エ）の考え方の全て、１０のまとまりを意識しており、「１０といくつ（バラ）」という数の見方を使っていることに気付かせる。）	・どの考え方も、１０のまとまりをつくっています。そのあとに、１０とバラをたしています。	●９＋４の計算の仕方を、数の見方（１０といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。（行動観察・プリント）
○ペアで、説明し合いましょう。 	・９はあと１で１０になるので、４を１と３にわけます。９と１で１０。最後に、１０のまとまりとバラの３をたして１３で	【学習を関連付ける着眼点】 本時では、ブロック操作と関連づけて、１０のまとまりをつくるために加数を分けてたして答えを求める計算の仕方

	す。	を、左のようなさくらんぼ図に整理する。
７　まとめ 〇今日は、何のまとまりを考えましたか。 〇１０をつくったあとは、どうしましたか。	・１０のまとまりをつくって、１０とばらの３をたして、答えは１３になりました。	
１０のまとまりをつくって、１０とばらをたす。		
８　適用題 〇９＋３を計算のしかたを、いいましょう。	・１０のまとまりをつくる。３を１と２にわける。９＋１＝１０。１０＋２＝１２	〇問題提示の際には、９＋４の４を３に置き換え、９＋４との違いが分かるようにする。 ●９＋３の計算の仕方を、数の見方（１０といくつ）を活用して、操作や図を用いて考え、説明している。（行動観察・プリント）
９　振り返り 〇今日の勉強は何が一番「大事な考え」だと思いますか。	・１０をつくるとかんたんにできることです。 ・今までも、１０といくつにわけて計算してきて、今日の計算も、１０をつくったら、計算できました。	〇次時の予告として、本当に１０のまとまりをつくれば簡単にできるか、他の問題でも確かめていくことを伝える。 〇時間があれば、本時でまとめた計算の仕方が実感をもって理解することができるように、被加数が９になる加法の問題に取り組む。